

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500565		
法人名	都メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム磯葉の家(1号館 2号館 3号館 合同)		
所在地	御前崎市白羽5522番地-5		
自己評価作成日	平成26年7月30日	評価結果市町村受理日	平成26年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiryoNoCd=2275500565-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成26年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもと利用者様の身体状況、心理状態、生活の様子等を理解し本人がゆったり楽しく自分らしく生活が出来るよう支援していきます。本人や、家族の本人への願いや本施設への要望を大切に、個々プランを実施していきます。本施設での利用者様の状況の連絡を密にし、ご家族に理解して頂くと共に施設とご家族とご家族と本人のケアに努めていきます。 ・一日1回は職員と1対1で散歩や外気浴に出掛け、関わりを持つ中で一人ひとりの思いを聞いていく。・職員出勤時には、利用者様一人ひとりに挨拶をする。・家事の手伝い等一人ひとりに役割をもって頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

バス通りに面した空色の建物は開設10年を経てすっかり地域に溶け込んでいます。この一年、"出勤時は顔を見ながら名前を呼んで挨拶する、"短時間でも散歩は1対1で行う、ことに力を入れてきました。この取組みはその日の顔色や言葉、身支度で状態変化に気づく観察力と、じっくり向き合う時間を作ることで相手を認め自分も受け入れられる満足感を育み「利用者が頑張っている」「職員である私たちが見守られている」という感謝の言葉に表れています。管理者から職員に発信される「みんなのおかげ」という想いも深く、コラボレーション効果となって利用者へのあたたかい眼差しに溢れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で暮らし続ける。を大切に日々取り組む為の理念を作り上げその人らしく生活できるお手伝いができるようにしている。	法人理念は朝礼で唱和し、事業所理念は目につきやすい場所に掲示しています。職員主導でなく利用者のペースを守りたいと言う管理者の想いは「ご利用者が頑張っている、私たちが助けられている」と話す職員の温かい眼差しに表れ、実践を物語っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大切に暮らすよう努力している。散歩等での近所さんとのあいさつ。畑を借り作物を育てる。保育園児の来設、近くの店への買い物。地元の床屋さんによる散髪。お祭りの参加。行事等の時駐車場を借りる。	散歩での挨拶は欠かせません。近隣からは季節の花や野菜のおすそ分けがあり、秋祭りには屋台が訪れお囃子披露と振舞酒もあります。中学生の職業体験や一昨年より始まった保育園児の訪問は年に複数回となり、何よりの楽しみとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、地域の方々に参加して頂き地域に貢献出来ることを相談したり、包括支援センター主催の認知症ケア会議への参加やキャラバンメイトになり認知症サポーターの育成など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一度開催し定例のメンバーの他に地域の医療の方に講師に来て頂きそこで出た意見や情報をサービスの向上に役立てている。	高齢者支援課、町内会長、老人会長、家族代表、市議会議員といった多彩な顔ぶれがあり、職員も同席することで課題を共通認識できる好機となっています。「講演会を継続してほしい」との要望から趣向を凝らして、看護師、薬剤師、歯科衛生士を招いています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員の方の参加や市主催の会議や研修に積極的に参加したり連絡を密にし、協力関係を築くようにしている。	運営推進会議には毎回出席があり疑問点への丁寧な対応と、夜間や休日の行事にも足を運んでもらえる関係が構築されています。地域包括支援センターが統括する地域ケア会議は事例検討や情報交換の場として活用しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしており、利用者の立場に立ち、安心して介護が受けれるような環境を整備し、玄関の施錠も最小限の必要時以外は掛けないように取り組んでいる。	職員が一人になる時間帯を除いて施錠はしていません。「待つて」の言葉も声のトーンや強弱で変わってくるため、受け手の立場になって考えるよう職員会議で論じ合っています。また思わず使ってしまった場面でもお互いに注意しあえる風土があります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止をマニュアル化し、職員が虐待防止に関する知識を得ており、虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は市や社会福祉協議会等の会議で学ぶ機会があるが、職員全員が理解できていない。必要とする利用者がいた時には学ぶ機会を持っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項を十分説明し、利用者や家族の同意を得られ且つ不安や疑問点も尋ねるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、家族等が本施設に来設した時意見や要望を聞くようにしている。	運営推進会議には各階代表委員の参加があります。月次の支払いは直接届けてもらっているためフェイスTOフェイスの話し合いに比重をおき、担当職員の写真掲示や避難訓練の方法、レク時間を増やしてほしいといった意見に迅速に対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で気軽に意見や提案が言える機会を設けている。	休憩時間の取り方は全員で協議して決めており、職員を「助けてもらった仲間」「足りない部分を補ってくれる」と認める管理者には相談事も多く寄せられています。気になる時には声をかけ、随時個人面談を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や処遇改善交付金により手当を出し向上心を持って働けるように努めている。ボーナスにも個人評価を行って個々の努力の評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修。法人内の年2回の研修や法人外の研修についても提示し自由に参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会主催の福祉の講座等に参加。地域のグループホームやディサービスとの交流。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で本人の要望や思いを聞いたりさぐったりして本人の安心出来るサービスを提供する。入居後さらに関係を密にし思いや要望の変更等速やかに対応していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で家族の困っていることや、不安な思いをゆっくり聞くことで、安心できるような関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接や情報等で、必要な支援である事を見極めサービスを利用して頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭で生活。を念頭に利用者の暮らしを考え、もし自分が利用者の立場だったらという思いで、時には家族になったつもりで接する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思い、要望を家族と職員が共通理解をし、同一步調で本人を支援していく。面会のすすめ、家族と過ごす時間が持てるを勧める、面会時に居室にて、水入らずの時間を過ごして頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・本人にとって大切な人等に月1回程度の来設をお願いしており、馴染みの関係を続けられるよう支援している。	馴染みの床屋まで職員が送迎したり、お墓参りや家族への手紙、年賀状支援をしています。得意な料理や漬物に精を出したり、「できないよ」と言いつつ慣れた手つきで縫い物をこなし、本年の園内運動会には手作り鉢巻で臨みました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や、食事作り、等の作業時にはなるべく多くの利用者が参加でき交流できるようにしたり、共通の話題を提供する。他ユニットへの交流も図る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の本人の動向について家族にお聞きして連絡を取っていく。退居後もご家族から連絡を頂いたり、訪問も頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に思いや希望を伝えることができるよう、一緒に家事や散歩や入浴する中で本人の思いや意向等を把握し本人の希望に沿うよう支援していく。必要に応じ家族と連絡相談していく。	担当職員に限定せず散歩は短時間でも必ず一対一で実施することとしています。「家に帰りたい」と繰り返す想いを受け止め、家族との面会や外食の機会に繋げています。本人の言葉をそのまま介護記録に記載して情報共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報の提供を頂いたり、日々の生活の中で本人より傾聴し、把握していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を良く観察したり、コミュニケーションをとったり、記録をとることで過ごし方や身体状態有する力を確認する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン会議で本人の課題等を共通に理解し必要時には家族と話し合い、みんなでより良い支援の在り方を検討し、介護計画を作成している。	プランは居室担当を決めています。ユニットの全職員で検討し、各階の計画作成担当者が作成しています。本人の想いが込められた言葉を大切に、サービス内容は毎日の介護記録で項目ごとに達成状況が確認できています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはケアプランの目標について毎日記録し、目標が達成できるよう職員間で共有しながら、ケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスは利用していないが近隣のデイサービスのイベントに参加したり、遊びにいかして頂いている。本人の状態によっては系列のケアセンター等の紹介も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り、産業祭等への参加。近所の畑や駐車場を借りる。近所でのいちご狩り、いも掘り。地域の店で買い物を。散歩時の近隣の方との交流。中学生の職場体験。運営推進会議への地域住民、警察、薬局、市役所職員の参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談、受診出来る協力医院があり、受診、受薬、検査、往診、予防接種等適切な医療が受けられている。	家族の協力で専門医を継続する人もおり、詳細な状態説明が必要な場合には職員が同行しています。歩いて行ける距離に協力医があり、本年4月より歯科医の訪問を開始しました。口腔ケアの大切さを実感し力を入れています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い状態の変化に留意している。職場内に看護師は不在だが、主治医の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中精神の安定が図れるように、担当者が定期的に病院に足を運んだり病院との情報交換に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来ることは家族、主治医に協力を得、支援するよう取り組む。個人記録をもとに本人の状態を正確に家族に伝え必要時には主治医、家族と話す機会を設けるようしている。	家族の強い希望から、医師の指示に従い事業所で看取った事例がありますが、十分な医療連携体制もないため、入居時には食事が摂れなくなったり医療行為が必要になった時点で話し合いをもつことを説明し合意形成できています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習をほとんどの職員が受講しているが緊急時の実践力を職員全員が身に付けていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い反省、問題点を検討したり、担当者の研修で理解を深め実のある訓練が出来るようにしている。地元消防団の参加頂き地域との連携や協力を築いている。	年2回、想定を変えて訓練を行っています。メールでの連絡網や、職員の手が少ない夜間帯の対応については特に試行錯誤しています。消防団との協力体制が口頭確認できており、避難経路や建物の間取りをみてもらっています。	消防団や近隣との協力関係がより堅固となる呼びかけを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話を否定せず肯定的に聞き入れる。本人の人格や習慣を受け入れる。訪室時やトイレ時持ち物に配慮する。	一人で入浴したい人にはさりげない見守りで安全面へ配慮しています。名前は「さん」付けが基本ですが、本人の心地よい呼び方があれば受け入れています。申し送りは利用者の前で行わず、声を控え部屋番号で伝えるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えや要望に常に耳を傾け本人が満足できるように対応するよう心掛ける。いくつかの選択肢を出すことで自己決定がスムーズに出来るように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に。日課に沿って生活していくものの臨機応変に対応していく。自由に楽しめる為の環境作り。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの利用者が二か月に一度の散髪を楽しみにしている。入浴や洗濯、洋服のコーディネート相談や、個々には化粧も楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い好みの料理の提供や利用者と共に米とぎ、盛り付け、お茶つぎ、味噌汁作り等一人ひとりの出来る力を見極めながら準備したり、今まで使用していた食器を使用したり、盛り付け等も工夫している。	毎日手作りのものを提供し、メニューは各フロアごとに異なります。家庭からレシピを持ち寄る若い職員の料理も好評です。男性利用者でも盛り付けを手伝う姿があり「今日の味付けはどう？」と会話が弾む食卓を視認しました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や、水分量については、毎日記録している。配分量や形態等は個々に応じて配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受けその方に必要な口腔ケアを実施している。夜間は義歯は預かり洗浄液にて消毒する等本人の状態に合わせたケアを実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員排泄表を記入し排泄のパターンを把握し全員布パンツ、トイレで排泄に向けてトイレ誘導、声掛けを実施している。	経済的負担の軽減や、皮膚トラブルもなく気持ちよく過ごせることから、全員布パンツを目指しています。便秘対策は安易に薬に頼らずヨーグルトや水分摂取、散歩を心がけています。「ここにきて一番よかったことは紙パンツでなくなったこと」という声が聞かれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示のない方は、水分一日1500CC以上と食材の工夫、散歩等で自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自の希望に沿った時間に入って頂くようにはできていない。本人の希望で毎日入浴をゆったりと楽しんで頂いている。湯温、お茶風呂等考えている。(週1回は休み)	毎日入りたい人や一人での入浴は叶えられていますが、夜間の希望に応えられていないのが現状です。入浴拒否のある人にはタイミングを見計らった声かけや誘い方で工夫をしています。お茶風呂は大変喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣である希望に応じてベット、布団で寝られるようにしている。居室で自由に休んだり、気持ち良く眠れるよう干したり、掃除、ベットメイクもする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等で薬の種類や効用、服用の仕方、注意事項を理解する。服薬時には日付、氏名、を確認、反復し服用するまで見届ける。常に本人の状態を把握し、年1回の検査を行ったり服用薬の見直し等必要に応じて主治医に相談していく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や食事準備などの役割を本人の希望や能力に合わせて行って頂く中に職員からのお礼の言葉に張り合いや喜びを感じて頂く。本人の楽しめるリクレーションや趣味も提供する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、おまいり、行事等の参加など積極的に行い本人の楽しみを増やす。家族との外出や、食事など家族と過ごす時間が持てる為の支援もしている。	一対一の散歩は職員を独占できる時間でもありません。企画係が藤の花の名所や夏の海岸線といった四季折々の自然を感じられるドライブを計画しています。家族との食事や服、飴玉の買い物、回転寿司にも出かけたりもします。	利用者の想いに添ってさらに充実した外出支援が行われることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたい時に買いたいものが買えるように本人家族と相談しながら預かっているお金を使用している。所持に拘る利用者には少額のお金を家族と相談の上持って頂いており、状況は常に把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のご希望で携帯電話を持っていたり電話を掛けたり、手紙のやり取りも、職員が協力している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全な環境を第一に考えながら、ソファの位置やその他の家具の置き場所も職員で相談しながら決めている。玄関にも季節の花を置いたり、ベンチを置くなど季節や、生活感を取り入れている。	玄関のヒマワリは職員の明るい挨拶と重なって訪れる人を和ませます。掲示係が中心となり季節感ある合同作品が各階に飾られていました。夏季は空調に頼らず自然の風を入れ、利用者に合わせて冷えすぎない温度管理をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でひとりで過ごされたり、ホールが団欒の場となり、ソファや椅子で談話等が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた家具やTV、衣類、寝具などを持ってきて頂くようにしている。お花、人形、ぬいぐるみ、本、写真など本人の趣味や楽しみの持てる部屋に工夫する。	壁に貼られた孫の絵や家族の写真が毎日を優しく見守っています。書き物に使う椅子と机は自宅にしているような空間を醸し出し、落ち着いて集中できます。布団は毎週干し、できる人には箒をもって掃除してもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、利用者の状態によりシルバーカーや歩行器等を使用し自立した生活が出来るようになっている。		